

■やさしさとは強さのこと

黄帽子や名札に赤い羽根をつけて登校する子どもたちの姿を見かけます。

校門で立ち番をしている私に、青空を見上げながら、いろいろなことを話してくれる場合があります。8日（水）のことです。

「昨日かなあ、一昨日かなあ。満月だったなあ。」「中秋の名月っていう名前なんだって。」「（青空に浮かぶ雲を指さし）あっ、あの雲の形は日本列島みたい。下の方には、ちゃんと沖縄があるし。」

「電線にたくさんの鳥が止まっとるで。」「あっ、本当だ。スズメかなあ。」

「そう言えば、台風が来ているだって。（おはよう朝日の）正木さんが言っとんかった。」子どもたちのこんな声を聴くと、朝から何とも言えない幸せな気分になります。

児童昇降口では、計画委員会の高学年が赤い羽根共同募金を集めています。府中っ子のやさしい心が、これからの共生社会の実現のお手伝いとなっていくのです。

教室での朝の会では、今月の歌♪やさしさに包まれたなら♪の素敵な歌声が聴こえてきます。

やさしさに関して、『北風と太陽』の物語があります。皆さん、よくご存じでしょうが、「力自慢の北風と笑顔の素敵な太陽が、旅人のマントを脱がせる競争をする。最初に力自慢の北風がものすごい強風を吹かせるが、いくら強風を吹かせても旅人は身を固くしてマントを押さえるだけ。ところが、次に太陽がサンサンと陽光を照らすと、旅人はマントを取ってしまった」という話です。

この物語は、本当の強さとは、ねじ伏せてしまうような強さや他を認めようとしない強引さではなく、他を認めた上で受け入れ、支え、譲り合うやさしさの中にあるということを、私たちに教えてくれます。

また、ねむの木学園を運営していた故・宮城まり子さんも、「やさしさとは強いことなのよ。強かったら我慢できるでしょう。強かったら譲ってあげることができるでしょう。だから本当に強いってことは、すごくやさしいことなのよ。」と語っています。

「やさしい」とは「優しい」と書きます。人が（を）憂うと書くのです。

言葉で「やさしい」と言ったり書いたりすることは、それこそ「易しい」ことですが、強さを兼ね備えた「優しさ」はそんなに簡単ではないでしょう。人は人によって勇気を与えられ、認めてくれる人、支えてくれる人があって成長していきます。

府中っ子のよりよい成長、実りの秋のために、引き続き、保護者・地域の皆さんも一緒に、優しく強く府中っ子を応援願います。

（校長 山本 考一）



校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。（パスワード：)

学校教育目標「自分を伸ばす みんなで高め合う 府中っ子～「自分事」「自分たち事」となる学びの創造～」

PTA スローガン「絆とつながり～学校と地域で子どもたちの未来を育む～」